

令和5年10月16日

都道府県剣道連盟
理事長 殿
専務理事 殿

公益財団法人 全日本剣道連盟
専務理事 中谷行道
アンチ・ドーピング委員長 宮坂昌之

スポーツファーマシストの紹介と活用

各都道府県では、剣道愛好者や競技者の方々からアンチ・ドーピング関連でお薬に関する質問が出てきているかもしれません。これに関して、スポーツファーマシスト制度がありますので、貴連盟においてもぜひ活用されることをお勧めします。

1. スポーツファーマシストとは

- (ア) 公認スポーツファーマシストは、医療に係る最新のアンチ・ドーピング規則に関する知識を有する薬剤師です。
- (イ) 薬剤師の資格を有した方が、(公財)日本アンチ・ドーピング機構が定める所定の課程(アンチ・ドーピングに関する内容)終了後に認定される資格制度です。

2. 主な役割

- (ア) スポーツファーマシストの仕事は「アンチ・ドーピングの知識を用いて、スポーツの競技者や指導者へ薬の使い方をアドバイス」することです。
- スポーツにおいて、ドーピング行為は重大なルール違反であり、選手資格やメダルの略奪など選手生命に影響を及ぼす場合もあります。
- このため、スポーツファーマシストは
- 医薬品の適正使用とアンチ・ドーピングに関する情報提供
 - 学校教育の現場におけるアンチ・ドーピング情報を介した医薬品の使用に関する情報提供
 - 地域におけるスポーツファーマシストの存在とアンチ・ドーピング活動の周知
 - 国民体育大会に向けての都道府県選手団への情報提供・啓発活動
- などの活動を行っています。
- (イ) ご存じの通り、剣道においても、全日本剣道選手権大会(男女)では必ず何名かの

選手にドーピング検査が実施されます。また、国民体育大会（令和 6 年から国民スポーツ大会）、世界剣道選手権大会でも同様です。したがって、選手は日ごろから禁止されている薬を摂取しないように気を付けなければなりません。しかし、薬に関する知識が必ずしも十分でないと思われますので、身近に医師のほかスポーツファーマシストがいれば相談しやすくなります。

近年では、意図的なドーピングではなく、「うっかりドーピング」が問題視されています。これを防止するための相談相手にもなってもらえenと思います。

(ウ) この他、スポーツをする中高年のケアなど、身近な立場から薬と健康についてアドバイスすることも期待されています。

3. 現状

(ア) 2021 年 12 月現在、スポーツファーマシストの認定者数は 1 万 1,489 名です。

(イ) 東京都の例を挙げますと、東京都では 206 名のスポーツファーマシストが登録されています。そのうち、「興味あるスポーツ」として剣道を挙げている方は 4 名です。おそらく他の都道府県では、「剣道に関心のある方」は少ないかもしれませんがスポーツファーマシストとして登録されている方はおられるでしょうし、剣道に関心を持っている方もいる可能性があります。

4. 貴連盟において

代表選手及びその候補となる選手にとってはスポーツファーマシストを活用する余地は多いと思います。また中高年の剣道家にとって有用な場合も考えられます。上記の通り、アドバイスも期待できます。たとえば、貴連盟の医・科学委員会のメンバーとしてスポーツファーマシスト 1 名を加えていただければ、剣道愛好者や競技者からの質問に対して、これまでよりもさらに具体的に答えることができるようになるかと思えます。

なお、各都道府県におけるスポーツファーマシスト登録者は、インターネットで検索できます (<http://www3.playtruejapan.org/sports-pharmacist/search.php>)。一度調査の上ご検討いただければ幸いです。

以上